

# 太陽光発電のコスト低減イメージ

【別紙】

- 欧州の約2倍のシステム費用を大幅に引き下げ、市場価格水準をそれぞれ達成。 (=自立化)
- このため、非住宅については、2030年10万円/kW、住宅用については、2020年以降できるだけ早い時期に20万円/kWの達成を目指す。

## 【現状】

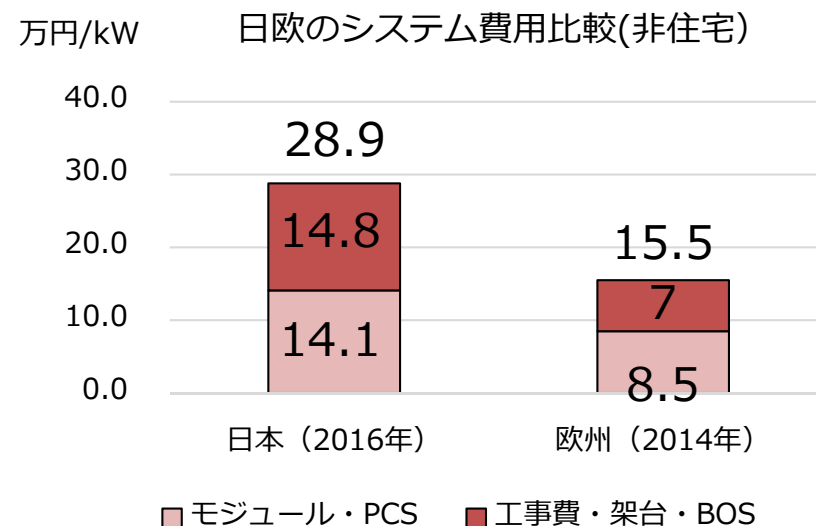
現行のシステム費用は、約30万円/kWで欧州の2倍

### モジュール・PCS：1.7倍

- 国際流通商品でも内外価格差が存在。
- 住宅用は過剰な流通構造で3倍の価格差。

### 工事費・架台等：2.1倍

- 太陽光専門の施工事業者も少なく、工法等が最適化されていない。
- 日本特有の災害対応や土地環境による工事・架台費増。



競争促進と  
技術開発により  
国際価格に収斂

工法等の最適化、  
技術開発等により低減

## 【目標】

### <非住宅用太陽光>

- **2020年 20万円/kW**  
(発電コスト14円/kWh※に相当)
- **2030年 10万円/kW**  
(発電コスト7円/kWh※に相当)

### <住宅用太陽光>

- **2019年 30万円/kW**  
(売電価格が家庭用電力料金24円/kWh並み)
- **出来るだけ早期に 20万円/kW**  
(売電価格が電力市場価格11円/kWh並み)

※2020年14円、2030年7円/kWhはNEDO技術開発戦略目標